

**「マイナビ 2022年卒大学生 活動実態調査(9月)」を発表****2022年卒業予定の大学生・大学院生の9月末時点での内々定率は86.6%****内々定先への入社を反対されたことがある学生は27.7%、反対された相手は両親が最も多く69.9%**

株式会社マイナビ（本社：東京都千代田区、代表取締役 社長執行役員：中川信行）は、2022年卒業予定の全国の大学生、大学院生を対象に実施した、「マイナビ 2022年卒大学生 活動実態調査（9月）」の結果を発表しました。（調査期間：2021年9月25日～9月30日）

**《TOPICS》**

- ◆ 2022年卒業予定の大学生・大学院生の9月末時点での内々定率は86.6%【図1、2】
- ◆ 内々定先について、周囲から否定的な意見や反対を受けたことがある学生は27.7%で、反対された相手は父親・母親がもっとも多く約7割。反対されたことのある点の上位は「安定性」「将来性」「福利厚生制度の充実」【図3、4、5】
- ◆ 内々定先について否定的な意見や反対を受けた学生のうち、内々定先を辞退した学生は30.0%。反対を受けても説得や再検討を経て入社を決めている学生は6割以上【図6、7】

**【調査概要】**

2022年卒業予定の大学生・大学院生の9月末時点での内々定率は86.6%。8月末時点と比べると内々定率は5.3pt増、平均内々定保有者数は2.3社で0.1社の増加となった。【図1、2】

内々定先の企業について、周囲から否定的な意見や反対を受けたことがある学生は27.7%で、その相手は「父親・母親」がもっとも多く69.9%であった。また、否定的な意見や反対を受けた点としては、「安定性」「将来性」「福利厚生制度」が上位3項目だった。近年、採用活動において「オヤカク（親・保護者への内定承諾の確認）」という言葉が一般的になってきている。今回の調査結果からも、両親から自身の内々定先について否定的な意見を受けた学生が一定数おり、就活生の親の多くは内々定先が「長く安定して働ける会社かどうか」を重要視していることが分かる。【図3、4、5】

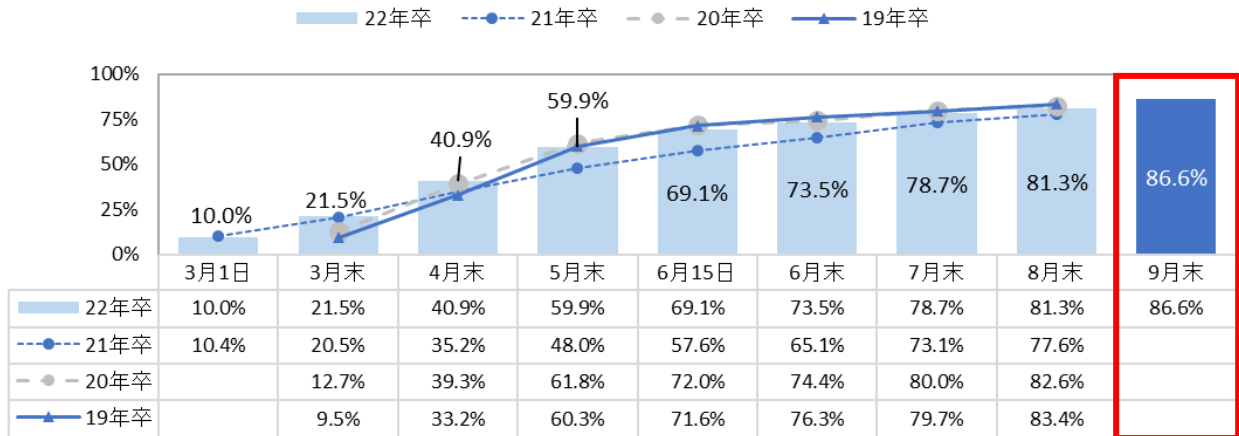
内々定先について否定的な意見や反対を受けたことがある学生に、その後の行動について聞いたところ、最終的に内々定先を辞退した学生は30.0%。相手を説得したり、再度自分で検討するなどの行動を経たうえで入社を決定した学生が66.8%となった。入社を決めた学生のコメントからは、「就職活動で大事にしていた軸を伝えた」、「将来の希望の働き方を再度考えた上で入社を決めた」などの声が見られた。反対を受けたことで、「なぜその企業に入社したいのか」「どのようなキャリアを積みたいのか」を改めて考え、周囲も自身も納得したうえで入社を決定しているようだ。【図6、7】

**【調査担当者コメント】**

今回の調査で、就活生は内々定先の企業について、両親を筆頭に友人や大学の教授などから反対を受けるケースがあると分かりました。ただ、反対を受けたとしても「反対を受けたままでは入社できない」という理由で辞退した学生は少なく、7割近くの学生は説得や再検討を経て入社を決めています。その経緯を見ると、否定的な意見や反対を踏まえたうえで、「本当に心配ないのか」「働くうえで自分が優先したいポイントは何か」を改めて考えている学生が多く、その過程はキャリアを選ぶにあたり重要な視点だといえます。内々定先について反対されることがあっても、周囲が抱く懸念点と自分のキャリアプランを整理して、納得のいく入社先を選んでほしいと思います。

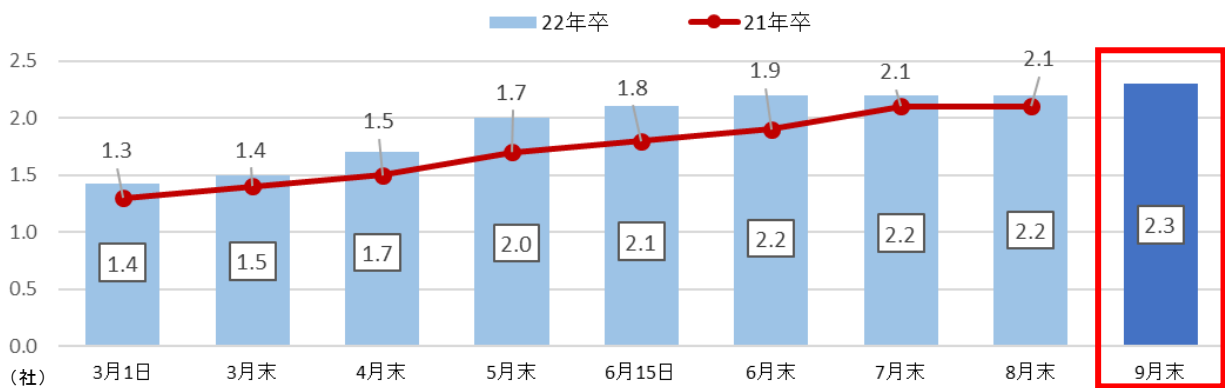
株式会社マイナビ キャリアリサーチラボ 研究員 沖本麻佑

【図1】内々定率経年比較

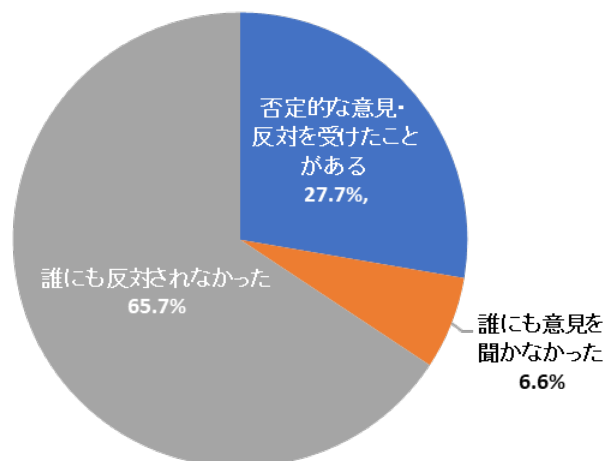


※3月1日時点の調査は2021年卒調査で初めて実施  
 ※9月末調査は2022年卒調査で初めて実施

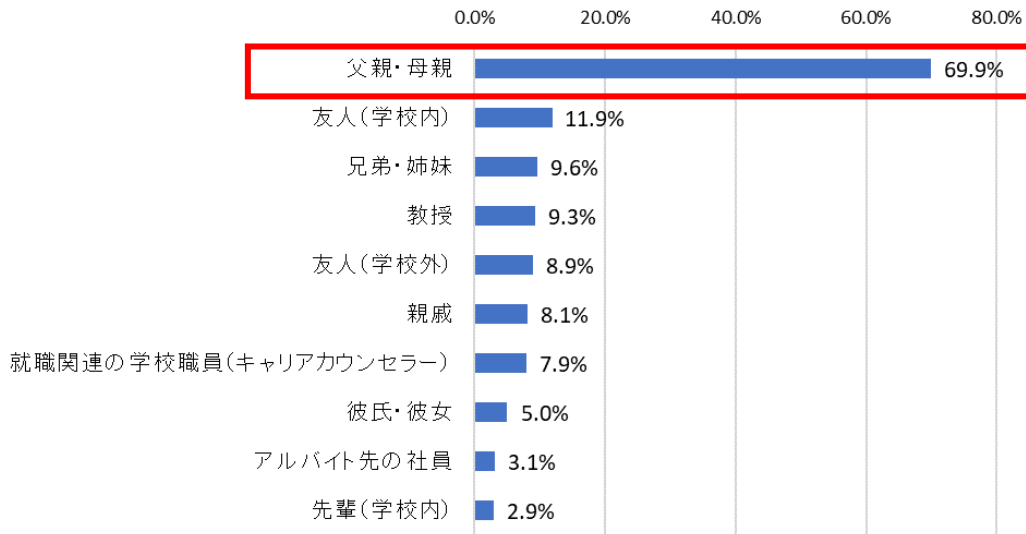
【図2】平均内々定保有社数



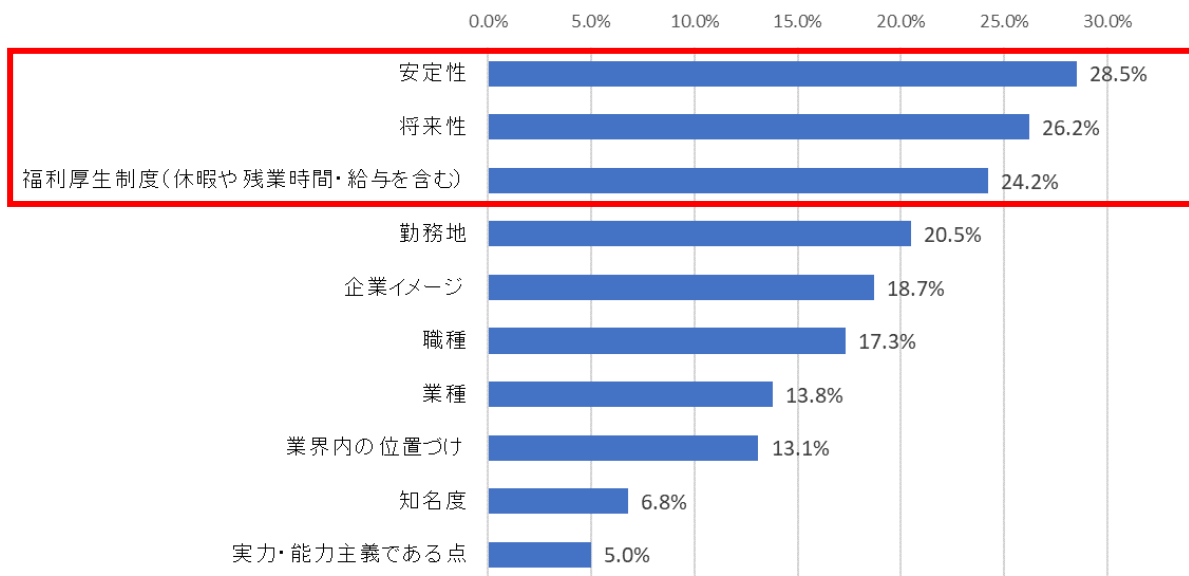
【図3】内々定先企業について否定的な意見・反対を受けたことがあるか



【図 4】 <内々定先企業について否定的な意見・反対を受けたことがある学生限定>  
否定的な意見・反対を受けた相手（上位抜粋）

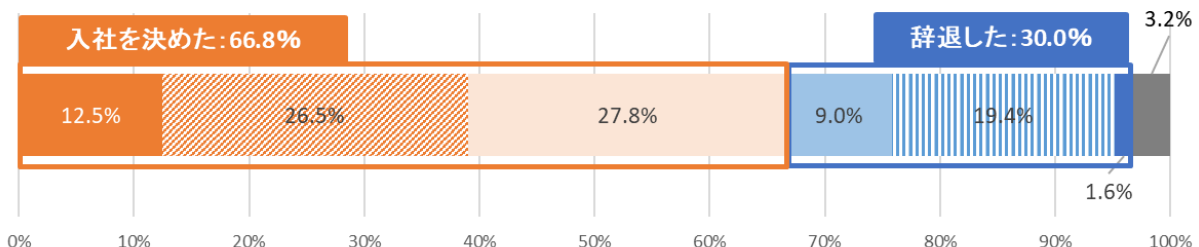


【図 5】 <内々定先企業について否定的な意見・反対を受けたことがある学生限定>  
内々定先企業について否定的な意見・反対を受けた点（上位抜粋）



【図 6】 <内々定先企業について否定的な意見・反対を受けたことがある学生限定>  
内々定先企業について否定的な意見・反対を受けた後どのような行動をとったか

- 相手を説得して、入社を決めた
- ▨ 相手の意見は気にせず、入社を決めた
- 相手の意見を踏まえて再度検討したが、最終的には入社を決めた
- 相手の意見とは関係ない事情で、辞退した
- ▨ 相手の意見を踏まえて再度検討し、志望度が下がったので辞退した
- 志望度は変わらないが反対されたままでは入社できないので辞退した
- その他



【図7】 <内々定先企業について否定的な意見・反対を受けたことがある学生限定>  
内々定先企業について否定的な意見・反対を受けても入社を決めた経緯

文理男女	反対されていた点	どのような経緯で入社を決めたか
理系女子	知名度/職種/ 業種/その他	相手(父親・母親)はどんな不安を持って心配をしているかを聞き、それに対して企業内ではどうであるかを伝えて、不安を少なくしていくようにしました。その中で、自分では答えを出せない点については、採用担当者の方に事情を話し、社内の話より詳しく聞き、相手(父親・母親)に伝えるようにしました。また、不安点を少なくする事と同時に、私がどんな思いで受けていたか、何をしていきたいのかなど自分の意見を伝えていきました。その結果、まだ不安は若干あるものの、入社に向けて応援してくれるようになり、入社を決めるのに強い心支えとなりました。
文系女子	安定性/知名度	否定的な意見を持っていた父親は会社規模を気にしていましたが、自分の目指していた業界・職種かつ利用者としても好きな会社であったため、会社規模にとらわれず入社を決断しました。好きな会社でやりたい仕事ができることを大切にしたいですし、会社規模に関してはむしろ大きすぎない方が自分に合っていると感じていました(様々な企業の選考を受ける中で、自分に合った規模の会社を定められました)。父親以外の周りに人は否定的な意見を持っていなかったため、内定を承諾しました。
文系女子	安定性/ 福利厚生制度	現在の新型コロナの影響で安定性が確立されていないことや元々休暇が少ないことで母から否定的な意見を得たが、それらの意見を踏まえた上で、内定先企業は自身が就職活動の軸に当てはまっているか、また、自身の強みを活かせるかどうかを再度考えた。結果的にどちらにも当てはまると判断できた企業であったため入社を決めた。
文系女子	業界内の位置づけ/ 実力・能力主義である点/ 福利厚生制度	大学の教授から、私が内々定をいただいた会社はかなり実力主義で、忙しいと業界の知人からよく聞いているという情報を教えていただきました。やっていけるかと不安になりましたが、私は大学生活やアルバイトで忙しい生活には慣れていて、社会人になったら仕事中心の生活になる覚悟はしているため、自分のやりたいこと、将来へ向けてのキャリアを考えたいので入社することを決めました。
文系男子	勤務地	両親の考えでは、実家にある程度近い所で勤務して欲しいということであったが、私としては勤務地よりも仕事の内容や将来のことを優先的に考えたかったため、その点を両親に伝えた所、納得してくれました。
文系女子	社会貢献度/ 女性の活躍	キャリアセンターの方々から意見をいただいたうえで、自分でネットなどを使い情報を集めました。また、もう一度自己分析を再度して、「私はこの仕事がやりたい」と思えたので入社を決めました。

【調査概要】「マイナビ 2022 年卒大学生 活動実態調査 (9月)」

- 調査期間/2021年9月25日(土)～9月30日(木)
- 調査方法/マイナビ2022の会員に対するWEBアンケート
- 調査対象/2022年3月卒業見込みの全国の大学4年生、大学院2年生
- 有効回答数/2,603名(文系男子490名 理系男子499名 文系女子1,099名 理系女子515名)
- ※調査結果は、端数四捨五入の都合により合計が100%にならない場合があります。

※調査結果の詳細は会社HPのニュースリリース (<https://www.mynavi.jp/news/>) からご確認いただけます。